



第122号

**2014-2015年度 主題**

国際会長：Wichian Boonmapajom “Mission with Faith”

「信念のあるミッション」

アジア会長：Edward K. W. Ong “Through Love, Serve”

「愛を持って奉仕しよう」

東日本区理事：渡辺 隆 「原点に立って、未来へステップ」

湘南・沖縄部長：今城高之 「一人ひとりが愛と平和の種をまこう！」

クラブ会長：辻 剛 「初心に帰り、世のため、人のため」

—喜びと楽しみを求めて—



**今月の聖句**

「このように、わたしたちは揺り動かされることのない御国を受けているのですから、感謝しよう。感謝の念をもって、畏れ敬いながら、神に喜ばれるように仕えていこう。」

ヘブライ人への手紙 12：28

**「1年を振り返って」**

2015-16年度 会長 辻 剛



改めて過ぎし1年を振り返ると、公私ともに色々あったというのが実感です。今年度の横浜つづきクラブの活動報告書をまとめるため年度初めに作成したワークブックの活動計画を見ながら今年は充実感も緊張感もあった一年だったと感じています。この齢になると時が経つのが速く感じられるものですが、この1年はなぜか長く感じました。

まず我がクラブの活動を振り返ってみます。会長主題として、「初心に帰り、世のため、人のため—喜びと楽しみを求めて—」を掲げてスタートしました。

今年の特徴はなんとといってもクラブ設立10周年事業への取り組みでした。記念誌の発行、記念例会の開催、新規事業の企画・開発の3大目標を立てました。これらの事業は、テーマごとに検討チームを編成して、そのチームを中心に取り組んだことも効果があり、そして何よりもクラブメンバーが一丸となって取り組んで下さった結果、3大目標はすべて達成できました。その出来栄は感動的でした。しかし、この10周年事業を遂行する中で感じたことは、「受けた恩は石に刻め、かけた情けは水に流せ」という言葉でした。

もう一つの重要目標である湘南・沖縄部長の「会員2名純増」も年度末ギリギリになりましたが、めでたく達成することができました。特に今年度は当クラブから湘南・沖縄部に今城高之部長、林茂博書記、岡田勝美会計を出したため、全面的なサポートを心がけました。もちろん、様々な既存事業もすべて継続しました。特に今年の春からは担当主事を含め3名の横浜YMCAのスタッフがメンバーとなり益々関係強化が図られており、今後のYMCAとの更なる協働的取り組みに期待が持てます。(詳しい内容は別途作成した「活動報告書」を読んでください。)

個人的には、東日本区の「文献・組織検討委員会」および「定款見直しワーキングチーム」の委員の一人として宮内友弥、小倉恵一両委員長のもと、渡辺隆理事に「部の活性化についての提案」(提出済み)および「区定款見直しのタタキ台」を提出(予定)することが出来ました。これも充実感を感じる一因かも知れません。(次頁につづく)

**前月データ**

| 例会出席 | 48名 | 在籍会員数 | 19名 | 各種記録  | 前月  | 累計       |
|------|-----|-------|-----|-------|-----|----------|
| メンバー | 14名 | 月間出席数 | 18名 | 使用済切手 | 0g  | 1,000g   |
| ビジター | 31名 | メンバー  | 4名  | プルタブ  | 0kg | 10.4kg   |
| ゲスト  | 3名  | 月間出席率 | 95% | スマイル  | 0円  | 185.311円 |

**2016年6月本例会**

日時:2016年6月24日 18:30～  
場所:かけはし都筑

受付:(報告書) 岡田美和

司会:辻 剛

プログラム

開会点鐘 辻 剛会長

ワイズソング・信条 一同

今月の聖句 相賀牧師

ゲスト・ビジター紹介 司会者

会長挨拶 辻 剛会長

入会式 三木直子さん

立ち合い 今城部長、

浦出会員増強事業主査

卓話

「原発25キロ圏内の地に赴いて」

日本キリスト教団原町教会

中野 祐子さん

スマイル

各種アピール

YMCA報告 中山担当主事

誕生祝い

6月10日 横田孝久さん

閉会点鐘 辻 剛会長

~~~~~

\*閉会后、中野祐子さんを囲み、

辻会長・今城部長の労をねぎらう

懇親会を「ガブリエル」で開催しま

す。ご参加ください。

妻の孝子は1年8ヶ月前頃から病にかかり手術を受け、今年の2月にも別の手術を受け「痛み」という後遺症と闘っています。緊張感があるように感じるのはこのためかも知れません。彼女は教会、ワイズのみなさんのお祈りに勇気付けられ励まされ感謝しております。今後も休会せず横浜つづきクラブのメンバーの一人として近い将来クラブの活動に、また参加できる日が来ることを念願して頑張ると言っておりますので、よろしく願い致します。

年頭に申し上げたように、時代は益々ワイズの出番を求めています。年齢に関係なく理想を語ることを止めないでワイズダムの発展に努めましょう！

### <5月本例会報告>

日時:2016年5月21～22日

会場:富士山YMCA

参加者:今城 H・T、岡崎、岡田 K・M、久保、鈴木 S、田中、辻Ts、林M・S、福島、山添、横田

ゲスト:三木直子さん、中田健朗さん・土肥孝喜さん(京都YMCA)

ビジター:31名

渋滞のためバス利用の方々の到着を待ち、開会が遅れたものの34名のビジター・ゲストの方々、14名のクラブメンバーで記念例会が行われた。



(司会:今城高之)

- ◇ 辻会長による開会点鐘に続きワイズソング。ワイズの信条が力強く唱和された。
- ◇ 今月の聖句「ローマの信徒への手紙8:26、28」とメッセージを所用のため欠席された相賀牧師にかわり鈴木茂ワイズが代読、祈祷がなされた。
- ◇ メッセージ:相賀 昇チャプレン

「本日はご来訪の皆様とご一緒に、ここ富士山YMCAにおいて、つづきクラブ10周年を覚えて神様のお恵みに与ることができまして感謝いたします。今月の聖句には「私たちはどう祈るべきかを知りませんが“霊”自らが言葉に表せないうめきをもって取り成してくださるからです」とあります。今週17日、熊本地震後にしばらく活動を控えていた熊本県のPRキャラクター「くまモン」が「銀座熊本館」に登場し、来館者に被災地支援のお礼をしたと聞きました。実はある著名な漫画家、「丸出だめ夫」などで知られる森田拳次さん(76)が「くまモンがんばれ絵」というのをかいておられます。そこ

には松葉づえを突く満身創痍のくまモンが描かれ、「くまモンがクマっている助っ人に行くベア」と書き添えられていました。ふなっしーと違ってくるくまモン自身は言葉をお話さないので、しかし困っている人によりそい言葉に表さないながらもじっと助けを祈っている姿があると気づかされました。

パウロが伝えようとしたのは、被造物のさまざまな言葉に表せないうめき、これを神様ご自身が聴いて下さっているということでした。なぜならイエス様は十字架上で「わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか」と叫ばれましたが、それはまさに私たちのためにキリストが父なる神様に対してなされた究極の執り成しのうめきだったからです。そして神様のお答えこそ「万事が益となるように共に働く」(28)、つまり神様の人間と世界に対する愛は尽きない、決してお見捨てにならないというご決意ではなかったかと思えます。

10年という歳月を経て、私たちは自覚するとしなやかにかかわらず、様々なうめきにもかかわらず、このみ言葉のように執り成されて今があるのではないかと思えます。私たちの周りには様々なうめきがあります。生老病死といういわば避けられない人間的うめき、またワイズについていえば、個々のメンバーとしても、あるいはそれぞれのワイズメンズクラブ単位としても、内外からの課題に応える責任を果たすためのうめきがあるかと思えます。人生のさまざまな苦しみの中で、私たちはうめきを止めることはできませんが、万事を益とされる神様にすべてを委ねつつ希望をもって歩みたいと思えます。そしてすべては益に変えられ、神様が祝福と勝利を与えて下さると信じて前進しましょう。」



◇ <会長挨拶>

辻 剛会長

この場に駆けつけて下さったことに心から感謝。各ク



ラブでの大きなイベントで重要な役割を負っておられる皆さまが10周年を祝って下さること、これほど嬉しいことはありません。横浜つづきクラブが10年前に誕生、何もわからない私達は皆様のご指導、お支えによりスタートできました。愛と奉仕をもってこれからも今日を新しい出発点として歩み始めます。篤く御礼申し上げます。

◇ <ゲスト・ビジター紹介> 司会者

シンポジュームのパネラーとしてご出席の村井仙台YMCA総主事・濱塚盛岡YMCA総主事をはじめ出席の各クラブの皆様の紹介。

◇ <経過報告> 鈴木 茂ワイズ

設立の経過の報告。途中、記念誌が届きその場で皆様に配布。

◇ 山元町「みやま荘」からの祝電ならびに豪華なお花の披露がされた。



◇ <来賓挨拶> おめでとうございます！

➤ 利根川次期理事

クラブの言いにくい名前に意味がある。10年前に「メンズ&ウイメンズ」の命名はまさしく「名は体を表す」。活動内容も地元の団体と密接な活動や被災地への支援も素晴らしい。20年、30年ワイズの星へ向かって活動を続けて下さい。東日本区の中で常に発信・連動するクラブであってほしいと思います。

➤ 浅見第9代東日本区理事

理事在任中にできた4クラブの最後、金沢八景クラブに続き発足。どちらも活発に活動されていて感謝です。辻会長はじめ多くの東日本区でのお働きにも感謝です。

➤ 権藤東京コスモスクラブ会長

コスモスクラブ10周年に誕生した3つ目の子クラブ。奉仕第一のクラブ。どうやって次世代に厳しい世の中を乗り越えるかを教えていくことが課題。東京多摩みなみ

クラブがスタートすることを感謝。

➤ 金子横浜クラブ会長

設立の経緯、「ノースクラブ」と一緒にしたことを思い返します。孫クラブです！

本当におめでとうございます。発展を祈ります。

◇ <誕生祝い> 4名の方々に記念品贈呈。

◇ 「YMCAの歌」を高らかに唱和し、辻会長による閉会点鐘をもって閉会。

➤ 記念撮影を行った。



第二部 シンポジュームについては別途報告。

第三部 場所をBBQ会場に移して辻会長の司会により楽しい会食の時。



つづきクラブの林茂博ワイズを中心とした焼き方や配食係り等、精いっぱいのおもてなしに努め短い時間であったが多くの皆様のご参加により賑やかな豊かな愛餐の時となった。



心から感謝いたします。

(今城 宏子 記)

**<6月事務例会報告>**

日時:2016年6月14日(火) 18:00-20:30

会場:田園都筑教会・懇親会「一心」

出席者:今城 T、岡崎、岡田 K・M、久保、鈴木 S、田中、辻Ts、林 M・S、福島、横田

社会長最後の事務例会です。黙祷を行い次第に沿って議事に入りました。

◇ 開会・黙祷

◇ 会長挨拶

◇ 協議

## (1) 記念例会の件(報告・反省)

社会長「お蔭様で、計画通り無事終了できました。クラブ会員の皆様には臨時会費をいただきました。感謝いたします。収支会計は別紙の通りです。」

## (2) 東日本区大会の件(報告/表彰関係、他)・・・辻Ts

年次代議員会議では提案すべて承認された。

## (3) つづきクラブの2015～16年度決算見込みおよび2016～17年度予算案の件・・・鈴木S

「別紙の通り黒字の見込みです。予算は会員2名増(担当主事含み20名)で組んだ。次期会長と若干検討修正をする。」承認される。

## (4) 横浜YMCA会員事業委員会のつづきクラブからの候補者選考の件・・・鈴木S

「現委員長加藤利榮ワイズが退任し、次期委員長には当つづきクラブの鈴木 茂ワイズが就任する。新委員として岡田Kワイズを推薦したい。」承認される。

## (5) 山元町訪問の件・・・林S

「東日本区の補助がなくなったが、継続させたい。時間を効率的に使うため訪問先も検討したい。参加者にはクラブ外の者も含めて旅費助成をしたい。ファンドは東日本区の補助が5万円であったので、その額の確保に皆で工夫努力したい。」承認される。

## (6) 三木直子さん入会式の件・・・辻Ts

浦出EMC事業主査が立ち会ってくれる。

## (7) クラブ会則見直しの件・・・辻Ts

別紙の通り提案されたが、継続審議となる。

## (8) Y-Y's協議会の件

## (9) ボランティア保険の件

クラブ負担で全員継続加入する。

◇ 報告・連絡・確認事項等( )内は出席予定者

(1) 6月～予定確認(年間予定表にて)

6/18 部評議会(新旧役員) 6/24 本例会 6/26 東本郷地域ケアプラザ献堂式(礼拝相賀牧師、辻Ts、鈴木S、久保、林S・M、横田) 7/16 東京西クラブ創立40周年記念祝会(辻Ts) 7/17 東京多摩みなみクラブチャーターナイト(鈴木S、林) 8/3～8/8 国際大会(辻Ts、林S) 8/7～8/9 エイズ文化フォーラム 8/26～8/27 北海道部会&十勝クラブ40周年記念例会(辻Ts) 8/19 都筑区防災減災フェア(林S) 9/17 もりおかクラブ10周年記念例会・北東部会(辻Ts、林S)

(2) 報告

◎YMCA報告 山中ワイズ欠席のため省略

◎「みんなの家」報告(COCO) 6/7 集会出席(今城H) 傾聴研修会がある。

◎「みんなの家」報告(ポピー) 6/15 集会出席(鈴木K)

◎「アーモンド」報告(林M) 5/28(土) 子供食堂開始。

◎TKB活動報告(岡崎) 毎月の岡崎ワイズ宅での誕生日カード作りは順調に進んでいる。

◎歌声広場報告(久保) 菊名北YMCAでの本日の歌声広場は56名が集まった。

(3) 今月・来月のCS活動確認(月別担当者予定表にて) 前回の実績(各自自分が予定表の通りだったか)報告、次回の担当者変更など

(4) ブリテン6月号 原稿寄稿依頼内容の確認 (今月の協力者:横田)

◇ 閉会点鐘

◇ 一心での懇親会では、裏メニューの特製小エビ入りビーフンが美味最高でした。(岡田 勝美 記)

**<東日本大震災 あれから5年>****「今後の支援を考えるシンポジウム」**

ワイズ・YMCAとして今日まで継続してきた様々な支援活動を今後どのように考えるのか、被災地の現状を再認識し、方向性を模索したい。

コーディネーター:山添 訓

パネラー:村井仙台YMCA総主事・濱塚盛岡YMCA総主事

体験談:東京世田谷クラブ 小川圭一さん

もりおかクラブ 井上修三さん・大関靖二さん

## ◇ 村井仙台YMCA総主事の報告



1. ムービーで震災直後の様子(南三陸町、東松島町、山元町、仙台YMCA他)、現在の様子、横浜つづきクラブの山元町「みやま荘」「南保育所」訪問の様子、そして現在の「みやま荘」「南保育所」の様子が紹介された。
2. 津波被災地の現状について宮城県の資料から市町の震災復興計画、主な取組状況(住居、医療・福祉関連、経済・雇用関連等)の説明を受けた。
3. 原発事故被災地の現状についての報告①「放射線被害には触れないで」帰れないことが分かっていて諦めている人々は洗濯物を外に干す②帰還可能地域の不満-住居の問題、病院や店舗がない、子供のいる人は



帰れない③格差の発生—帰れない地域は東電からの補助金が多額出る。

4. 被災地支援の方向性として次の点を挙げられた。

- ①忘れない—原発から30km以内に居住の方の願い
- ②心のケア活動の必要性—行政からの補助が打ち切られケアができない
- ③視察、観光、物産購入を行う
- ④災害公営住宅支援—当該自治会に援助金を出す
- ⑤被災地行事支援—小学校や老人会のイベントを支援する
- ⑥祈り—牧師の方からの願い

最後に被災地の中高生達に奉仕する機会が与えられた—南三陸町の高校生をYMCA費用負担により熊本に派遣—ことが報告された。

#### ☆ 濱塚盛岡YMCA総主事の報告 (画像を用いて)

宮古の子供たちのソリ遊び、サマーキャンプ、田沢湖での体験(海で泳げない子の水泳体験等)様々な活動を通して宮古を愛する青少年の育成事業をNPO(マリーニフィールド他)と行っている。高校生育成—人間関係トレーニングを行い大学生のボランティアが一人ひとりの子と向き合っていくキャンプを通して成長を支援する。学生YMCAとの交流も行う。

大切なことは

- ① 他者の悲しみを自分のことのように思える
- ② 他者の喜びを自分のことのように思える
- ③ 自分のしてほしいことを、してあげられるようになること。

青年達(東京の、現地の)を巻き込んでいく支援を目指す。

#### ☆ ワイズメンズクラブの体験から

小川圭一さん(世田谷クラブ)

東京YMCAのコーディネートで昨年10月まで14回「歌声広場」で石巻訪問。「悲しい人と共に泣く」体験。今後もできることを続けていく。

井上修三さん・大関靖二さん(もりおかクラブ)

自然にはかなわない。とにかく逃げましょう。拠点作りが大切。3原則(耐震住宅、通電火災の防止、車の渋滞解消)を考える。

#### 纏め(山添コーディネーター)

これからの支援について方向性を示唆頂いた。具体的には村井山台YMCA総主事の「4」を考えていってはどうか。地域の中でどのように支援していくかは日頃からの関係性が大切。「自助・共助・公助」といわれているが、熊本では備えがなかった。

支援金について直接熊本YMCAに送れないかとの質問に対し東日本区からすぐに100万円を送ったこと、山台YMCAは5年前の被災時に神戸YMCAが300万円(使途自由)持参され助かったことに鑑み現金をスタッフが持参したことなど報告された。

最後に京都YMCAボランティアからの質問、「信頼関係を築くためどのような『ことば』が良いか、避けるべきか」に対し村井総主事からの答え、「すぐに結果は出ない、花は咲かない。しかし伝わる。種まき—後で心の

中にホッコリと!『悲しいこと、つらいこと』には触れない。引き出さない

自分の所におこったら、と思っただけで備えておく。コミュニケーションが大切。

➤ 村井山台YMCA総主事、濱塚盛岡YMCA総主事から震災後5年間の経過と現状を詳しくお伝え頂き、改めて支援活動継続の大切さを思わされた。その方向性についても具体的な示唆を頂くことができた、今後の活動に生かしていくことを考えたい。また、被災地の若い方々が支援を受けるだけでなく積極的に「隣人」に奉仕する姿を見せて頂き、YMCAが地域にあつてその指導的役割を果たしておられることに感動した。各ワイズメンズクラブがそれぞれの働き方で支援に関わっておられるが、今後クラブが継続をどのように行っていくかが「課題」でしょうか。真摯に向き合っていきたいと思います。

パネラーの皆様から感謝申し上げます。

(今城 宏子 記)

### <第19回 東日本区大会>

東日本区大会ならびに区諸行事が去る6月3日~5日の間、長野市で開催されました。

#### 1) 2015-2016年度第4回東日本区役員会

場所: 長野市善光寺・玄証院

日時: 2016年6月3日(金) 15:00~16:00

- ・ 渡辺理事による開会点鐘、村杉 JEF 委員長による開会祈祷で開会。
- ・ 理事より、役員、関係者の支えにより当期が無事終わろうとしていることについての謝辞が述べられた。
- ・ 他の委員(部長、事業主任、委員長等)からは特段の報告、発言もなく議案審議に移る。(議案審議)

- ① 第1号議案: 2015-2016年度東日本区年次報告及び行政監査の件(代議員会2号議案)
- ② 第2号議案: 2015-2016年度東日本区中間決算及び会計監査報告(代議員会3号議案)
  - ・ 第1号、第2号議案とも原案の通り承認された。
- ③ 第3号議案: ヤングメンバーに対する区登録費補助制度新設承認の件
  - ・ 先の役員会で承認されたヤングメンバー(39歳以下)への入会金補助制度廃止に伴い、新たに、ヤングメンバーの区大会参加登録費の半額補助制度新設が承認された。3年後に評価する。
- ④ 第4号議案: 東日本区定款見直し検討委員会設置の件
  - ・ ワーキングチームによる、見直し案の骨子が纏まったことを受け、当初計画通り、委員会を設置し、広く委員を募って見直しを進める。(3年間で完了予定) なお、委員長には辻剛ワイズ(つづき)が内定している。
- ⑤ 区大会聖日礼拝献金の贈呈先変更承認の件
  - ・ 過去の役員会にて、献金贈呈先を東日本大震災支援募金(東日本区)と定められたが、熊本地震発

生に鑑みて、両震災支援金に1/2ずつ献金することになった。

#### ⑥ 次年度次々期理事候補者指名の件

- ・ 次年度次々期理事候補として、宮内友弥ワイズ（東京武蔵野多摩）を指名した。

以上を終え、YMCAの歌を斉唱し、監事講評、理事挨拶、閉会点鐘をもって閉会。

## 2) 2015-2016年度東日本区代議員会

場所：長野市若里市民文化ホール

日時：2016年6月4日（土）10：30～11：45



- ・ 仙洞田区書記の司会で、開会点鐘、ワイズソング斉唱、開会祈祷をもって開会した。
- ・ 代議員総数76名に対し、出席者56名で代議員会成立が理事により宣言された。
- ・ 議案は1～9号議案まで上程されたが、決算報告、行政監査報告等の定例案件がほとんどで、全議案は全く質疑応答もなく承認された。今後の区運営に関する事項の概要を報告する。

#### ① 次期役員等について

次期理事：利根川恵子ワイズ（川越）

次年度次期理事：栗本次郎ワイズ（熱海）

次年度次々期理事：宮内友弥ワイズ（東京武蔵野多摩）

次期監事：駒田勝彦ワイズ（留任）甲府21

久保田貞視ワイズ（東京八王子）

#### ② 2016-2017年度区理事方針（提案者：利根川恵子次期理事）

- ・ 理事主題：「明日に向かって、今日働こう」
- ・ 同スローガン：「手を取り合って、今、行動」
- ・ 重点目標（第6号議案）

##### I. クラブ拡張と会員増強

- ・ 会員数1000名突破と2クラブの新設

##### II. 部の強化・活性化

- ・ 役員の役割明確化と研修の充実
- ・ 部長選出方法の直し、部長公式訪問、部会の充実、部長のリーダーシップ発揮

##### III. YMCAとの協働の強化

- ・ YMCA会員率100%、
- ・ 両者の「協力関係の原則」締結、
- ・ 新たな事業の立ち上げ

##### IV. スリムな区の運営

- ・ 区運営の3S（Simple, Slim, Speed）促進。（部・クラブも同様）

※なお、区役員及び委員長全員が発表され承認された。（第7号議案）

- ・ 第21回東日本区大会のホストとして沼津クラブが立候補し承認された。

開催日程：2018年6月2・3日、  
沼津市プラザヴェルデを予定。

## 3) 第19回東日本区大会

大会主題：ワイズに引かれて善光寺  
～原点に立ち未来の扉を開こう～

日時：6月4日（土）～5日（日）

会場：長野市若里市民ホール（大会）

ホテルメルパルク NAGANO（晚餐会）

ホストクラブ：長野ワイズメンズクラブ

（協力クラブ：甲府、松本、甲府21、富士五湖、信越妙高）

来賓：加藤久雄長野市長（副市長が代行）

島田茂 YMCA 同盟総主事

エドワード・オン アジア地域会長

遠藤通寛西日本区理事

### 《大会概要と報告者所感》

- ① プログラム全体の流れは従来の区大会と大きく異ならず、代議員会（並行して、メネットワーク、担当主事会、ユースの会を開催）終了後に、区大会オープニングセレモニー、バナーセレモニー、開会式、来賓祝辞、メモリアルアワーと続き、ついで、「東日本区アワー（1）」として、理事による年次報告、代議員報告、部長・メネット・委員長などによる報告と続き、最後に、西日本区次期理事並びに YMCA 同盟光永主事による「熊本地震報告」が行われた。



- ② 善光寺のおひざ元でもあり、ホストの長野クラブには僧侶もおられるという、ユニークな環境の中、過去の大会に比べ、仏教色の強い特徴ある大会であったといえます。
- ③ ホストの長野クラブは、設立6年で会員12名のクラブながら、今回の大会実行委員長でクラブ会長の森本敏子ワイズのリーダーシップとメンバーの働き、各協力クラブの働きが相まって、大変素晴らしい運営が執り行われたことは称賛に値します。
- ④ プログラムは、通常の区大会と大差ないと印象を受けたが、個々の内容については、極めてユニークな工夫がなされていた。いくつかの例を挙げると：
  - (ア) 初日の「東日本区アワー」では、善光寺の声明研究会メンバーの僧侶たち（善光寺ならびに周辺寺院の住職とのこと）による迫力ある「天台声明」のパフォーマンスや、善光寺詣での「絵解き口演」などが演ぜられ、改めて日本の古い文化に触れることとなった。





(イ) ホテルでの晩さん会では開会のパフォーマンスとして「善光寺木遣」が演ぜられ、更に、仏教の作法による「食前の感謝」が行われた。

⑤ 最終日(6月4日)は、聖日礼拝の後、「東日本区アワー(2)」が催され、事業主任報告、各種表彰、理事・役員引継ぎ式が行われた。



最後に、次期や理事の所信表明と次期役員の紹介があり、閉会式に移行し、3日間にわたる2015-2016年度東日本区大会(第19回)が閉幕した。



なお、当クラブからは、辻剛会長、今城高之湘南・沖縄部長(共に代議員)、林 茂博部書記、岡田勝美部会計(クラブ書記)、鈴木茂クラブ会計の計5名が出席した。  
(今城 高之 記)

### <「みんなの家」と共に歩む>

「みんなの家10周年を祝う会」が2016年2月に開かれました。「みんなの家」は障がいのある子どもがいても共に地域の中で助けあって生活していきたい、という数名のかたの強い願いから生まれました。それから10年を経て、協力して下さった方への感謝と喜びを共に祝いたいとの気持から開かれ、つづきクラブからもお祝いに伺い

ました。



私たちつづきクラブも今年、設立10周年を迎え、お祝いをいたしました。この機に私たちは、クラブ会則の中に「地域社会に密着した奉仕活動を行い、地域社会に貢献する。」という項目を追加したいと考えています。同じ10年前に、一駅離れた場所で、それぞれの思いをもって新たな活動が始まったわけです。



つづきクラブと「みんなの家」との出会い、ひとりの友人を通して「みんなの家」で行なっている障がいの訓練のための教材づくりを手伝ってほしいとの依頼を受け、クラブのメンバー数人が参加したことがきっかけになりました。現在では教材づくりは終了し、「みんなの家」のメンバーとともに「おしゃべりサロン・ポピー」というサークルをつくり、活動しています。「ポピー」は、おしゃべりをしながら小物を作る楽しい会です。でもメンバーのみなさんは、いろいろと辛い経験をした方が多いためか、仲間が抱える問題をしっかり受け止めみんなで考えます。新しいメンバーも増え、この会で元気を取り戻した方もいます。会を重ねる中で、自閉症など障がいの問題を多方面から勉強し、多くの方に知ってもらいたいとの思いから、5年ほど前に「グループCOCO」という新しいサークルができました。「グループCOCO」のメンバーは、地域活動ホーム「くさぶえ」の相談員やグループホームの職員など、それぞれ違った立場で活動している5人のメンバーで構成され、つづきクラブからは今城宏子さんが加わっています。メンバーが相談し準備を重ね、年3度ほど「COCOの集い」が開かれています。毎年勉強のテーマをきめています。昨年は原点にもどって再度「共に生きると云う事」とし3名の方のお話を伺いました。

「みんなの家」は、つづきクラブが中心に行ってきた「YOU & Iコンサート」や「チャリティーラン」には大変協力的ですが、一昨年からは「みんなの家」の行事の一つとして組み込んでくださっています。今後ともお仲間として協力していきたいと思っています。

(鈴木 恭子 記)

**<第1回「アーモンド子ども食堂」報告>**

日時：5月28日(土)昼食  
 メニュー：ひき肉ドライカレー、ポテトサラダ、フルーツ  
 場所：北山田えきにわ内アーモンドの部屋  
 調理：地区センター調理室

水谷先生はじめボランティアたちの願いであった「子ども食堂」が、やっと実現しました。

いつも都筑区社協のボランティア・市民活動分科会でご一緒している配食サービスグループ「はまゆう」のみなさんに調理をお願いし、私たちボランティアやスタッフは会場作り・盛り付け等を担当しました。



初めての試みで、何名の子もたちが参加してくれるか心配しましたが、運動会などで参加できない子どももいて、10名の子もと私たち10名の参加者でした。

次回は、6月18日(土)に開催、メニューは「ちらし寿司」と決まりました。手探りながらも、何か良いスタートが出来たという事で、希望をもって今後の歩みを進めて行けたらと願っています。

現在は、私が週1回学習支援のお手伝いをしていますが、「アーモンド子ども食堂」の活動にもクラブとして支援していただければ幸いです。

(林 理子 記)

**<都筑区災ボラネット活動報告>**

- 5月12日 都筑区災害対策連絡協議会、
- 5月14日 横浜市災ボラネット街頭募金  
(桜木町駅前・熊本地震復興支援)
- 5月25日 都筑区災ボラネット平成28年度総会  
(出席：社会長・横田ワイズ、藤澤北Y職員)
- 6月11日 中川ふれあいフェスタ熊本地震街頭募金  
(2時間で、23,675円の募金あり)
- 6月12日 横浜市民防災センター見学(会員研修会)

(林 茂博 記)

**7月例会予告**

7月本例会は、キックオフ例会としてクラブ総会を行います。また若木部長の公式訪問を受けます。

**本例会：6月24日(金) 18:30~20:30**

**例会場：かけはし都筑**

7月事務例会は、12日(火)18:00から田園都筑教会で行います。新年度に向けて、総会の準備を話し合います。

**<横浜北YMCAだより>**

熊本地震から早2か月になります。5月18日(水)~24日(火)までの7日間、館長の山中が益城町体育館避難所へ支援に行かせていただきました。地震発生から1ヶ月が経った頃でしたが、まだ廊下には多くの人々が生活をしていました。益城町で被災された方は75歳でご主人が胆管癌で療養をしている間に被災されました。暑い廊下で寝ていることが多く、しんどい毎日が続いていたようですが「歩かないといけない!」とご夫婦でゴミの処理や靴の並べ替えなど小さなことではありますが大切な仕事を担ってくださいました。このような小さな働きが日常を取り戻していく一つのきっかけになっていくのだと思います。

支援の地でもワイズの皆さんの働きは大きなものでした。現在、空調のきくメインアリーナが住居のベースになっています。2回目の地震の時に天井がはがれてしまい。機器がむき出しになっていることと空調のききをよくするために、天井に大きな布が張られました。この布は熊本ワイズのみなさんを中心に140名のボランティアのみなさんが一針一針いねいにぬってくださったものです。優しい布が覆っていることで、天井が落ちてくるのではないかという不安感をのぞかせる大きな効果があります。全国のワイズの力を感じました。



5月29日(日)「発達障がいの子もと家族のためのイベント カヤックといそそび」を実施しました。SCジョンソンの全面サポートで参加費無料ということもあり、毎年大好評のイベントです。今年は天気も海のコンディションもよかったのでたくさん遊ぶことができました。午後は油壺マリンパークでの子どもタイムです。子どもたちはリーダーと一緒に水族館を見て回ります。大人はゆっくりとお茶を楽しんだり、ご夫婦での時間を持ってもらいました。家族で楽しい時間を過ごせたことと思います。

《7月行事予定》

- 7月1日~7日 安全週間
- 7月 7日 発達障がい勉強会(発達・教育支援)
- 7月 9日 ドレミであそぼう(発達・教育支援)
- 7月16日 横浜北YMCA運営委員会
- 7月20・21日 菊名小教員向け着衣泳指導
- 7月23日~ 夏季講習会開始

(横浜北YMCA 館長 山中奈子)